

令和4年度 第3回「未知への挑戦」推進部会 会議録

1. 日 時 令和4年12月2日（金）午後2時から午後3時30分まで

2. 場 所 徳島県万代庁舎10階大会議室

3. 出席者

(1) 委員（12名中7名出席）

金貞均部会長、高畑拓弥委員、近森由記子委員、平岡深愛委員、藤岡梨沙委員、
フェネリーマーク委員、森貴浩委員

(2) 県

政策創造部長、各部局政策調査幹 ほか

4. 議 題

(1) 新たな総合計画「長期ビジョン編」及び「中期プラン編」の素案（大要）について

(2) その他

<配布資料>

資料1 新たな総合計画「長期ビジョン編」及び「中期プラン編」の素案（大要）について

資料2 新たな総合計画「長期ビジョン編・時代の潮流」【概要】

資料3 新たな総合計画「長期ビジョン編」素案（大要）（2060年頃の目指すべき将来像）

資料4 新たな総合計画「長期ビジョン編・将来ビジョン（2060年頃の姿）」【概要】

資料5 新たな総合計画「長期ビジョン編」素案（大要）（2060年頃の目指すべき将来像）

資料6 新たな総合計画「中期プラン編」構成

資料7 新たな総合計画「中期プラン編」素案（大要）

5. 議事録

事務局より新たな総合計画総合計画「長期ビジョン」及び「中期プラン」の素案（大要）について資料1～7により説明の後、意見交換が行われた。

（金部会長）

どうもありがとうございました。それでは、御説明いただいた「長期ビジョン編」及び「中期プラン編」について、これから意見交換をしていきたいと思っております。何か御意見等ありましたら御発言いただきたいと思っております。どなたからでも結構ですので、お願いいたします。

はい高畑委員、お願いします。

（高畑委員）

ありがとうございます。非常に大きな計画という所で、何点かあるんですけども、皆さんからも御発言があると思うので、一番最初に、教育DXという言葉が入っていて、この委員さんの中ではだいたい教育の話に傾倒しがちなというふうに思いつつ、先にそこに触れておくと、まさにこの計画であるように、教育DXというのはこの会でも非常に

重要だなというところと、実装に向けての難しさというのは徳島だけではなくて全国で感じられているところはある中で、そこに先取的に取り組んでいく徳島であるべきだということでは全会一致で思っているところかと思っています。今、わたくしの方でも徳島発のデュアルスクールという事業に携わっている中で、デュアルスクールというのは一旦転校すれば良いというだけのものに見えるんですけども、非常に細かい部分でいくと、教育DXと並行して動かす必要性を非常に大きく感じています。なので、おそらくデュアルスクールの文脈だと、今でいくと徳島県の教育委員会としての事業だと思うんですけども、一部そこからの移住施策であったり、関係人口というところで行くと、教育部局だけではなく、行政としての横断的な支援というか、協業というのが必要だなと感じていますし、実際、そこからの移住施策、関係人口施策というところにも発展するのかなと思っています。現行の徳島県のデュアルスクールの制度でいきますと、どうしてもアナログな部分が非常に大きい部分があって、実際に今年度はデュアルスクールという取組自体がグッドデザイン賞の金賞を受賞して全国的にも有名なものになっている中で、運営にわたくしも携わらせていただいているところで行くと、問合せ件数が飛躍的に伸びている状況である一方で、実装というところになると、おそらく十件近くしか受け切れていないところで、その十倍以上の問合せ件数が来ているというような認識しております。今後おそらくこのニーズというのが、高まっていく中でそもそもの今の予算感も含めてだと思ってしまうんですけども、人員配置の仕方から抜本的に考え直したり、デュアルスクールを基軸にした、子どもたちがシームレスに来やすいような状況にするための教育DXというものを取り組んでいくというところが、徳島が今、足元の一番アドバンテージがあり、取り組んでいくことで先が見えるところかなと思っています。

もう一点は質問も含めてなんですけれどもICT教育の推進というところで、目標のところでは遠隔授業やオンライン授業を、日常的に行われる世界を目指すというところが非常に魅力的な状況だなと思いつつ、誰が遠隔授業やオンライン授業を活用するのかということと、遠隔授業を活用する先に、何をを目指すのかみたいなのところが並行してあるべきかなと思っています。遠隔授業が浸透した世の中を想像した時に、誰も学校に通わずに全員が自宅にいたまま授業を受けるという世界が、果たして望ましいかと言われると、僕の個人的な意見で行くと、学力は上がるかもしれないけれども、ほかの大切な何か失われるというか、育まれないんじゃないかという危惧がある中で、この遠隔事業であったり、いわゆるそのGIGAスクールを果たした先にこの計画の中で何を見据えているのかということについて一点お伺いしたいと思っております。

(金部会長)

いかがでしょうか。

(教育委員会)

教育委員会です。まず教育DXということでデュアルスクールのお話をいただいたんですけども、今年度は今、決まっているのが十件ございまして、あと何件か決まりかけているというものもございしますが、確かに予算の関係で、お断りとか来年度に回ってもらうとか、そういった事案もございまして。また庁内で横断的に検討する場を設けて、も

う少し受け入れが進むように、先ほど委員におっしゃっていただきましたようにグッドデザイン賞を受賞したということもありますので、そういった機会に移住にもつながることでございますし、教育委員会だけでなく、知事部局の方と連携しながらやっていきたいなというふうに考えております。

続きまして、遠隔授業やオンライン授業の関係でございますが、委員おっしゃることに全く共感するところなんですけど、これだけで教育をやると当然、人間関係の形成とか構築とかができないかなというところがありますので、それだけではやっていけないのではと思っております。また、GIGA スクールの関係なんですけど、GIGA スクール構想ができておりますが、実は今年度その次の計画、学校教育の情報化に関する計画を国がまず今年度立てまして、それに沿って県の方も立てていくようになっております。今年度内の策定を目指しているんですけど、その中で ICT 環境の構築でありますとか、あと人材の育成でありますとか、いろいろ考えていくことになりますので、お示しできたらなと思っております。以上です。

(金部会長)

ありがとうございます。高畑委員、いかがですか。

(高畑委員)

ありがとうございます。まさにデュアルスクールはいまおっしゃっていただいたようなところで整備をしていくということと、一つ御提案としてあるのが、今、おそらく学校でデュアルスクールを一件一件実施するに当たって、補助教員を配置していくというところで、そこにおける人件費というところも含めての予算に上限があるというところですので、年間で実施できる件数というのにキャップが付いてしまうというのがあります。一方で、補助教員を外せばいいのかと言いますと、やはり学校現場が多忙化している中で、働き方改革も謳われる中、そこを手放しに、来る人がたくさんいるのでお願いしますというのでも成り立たないものだと思っているので、一つ我々の方で考えているところとしては、ティーチャーズバンクで臨時的に一ヶ月単位とかだけで契約するというふうになってくると、まずそこに費用がかかってしまうということに加えて、ティーチャーズバンク自体の人材不足もおそらく今後考えられると思っております。なのでその地域ごとなのか、もしくは県として常駐するようなデュアルスクール推進員のような、コーディネーター及び補助教員が担っていたような人材を、例えば県南部2名、県西部2名、県東部2名みたいな形で、エリアで年間通じて配置できるような形になってくると、どのタイミングでも受け入れられるし、ティーチャーズバンクから派遣できないのでお断りさせていただきますといった不安定な制度運用にもならないと思っているので、ぜひその人材配置についても御検討いただければと思います。

後半の ICT を活用したオンライン授業等を間違った形で進めすぎてしまうと、まさに人間性であったり、コミュニケーションというところが失われてしまうよねっていうところがまさに見えてくるころだと思うので、ここに記載あるように、その障がいがある子であったり、行きたくても行けない子達をカバーするっていう点では非常に重要な一方で、今後考えられるところとしては、通学していた今の生徒達においても、家で受

けるだけじゃなくて、県西部の子がこの期間だけは県南部に行って、その地域でオンライン授業を受けながら、その文化を学んでいくというような、県内での文化伝承や、個別最適による時間捻出によって、ふるさと学習であったり、地域の学び探究学習というところに発展させるというようなビジョンが描ければ、徳島としての ICT 教育が非常に先駆的なものになるんじゃないかなと思っております。以上です。ありがとうございます。

(金部会長)

ありがとうございます。とても斬新な意見を出していただきました。今、教育に関するお話だったと思いますけれども、関連して何か御意見等ございましたら、お願いします。フェネリー・マーク委員、お願いします。

(フェネリー委員)

失礼します。ほぼ高畑委員の発言に近いかもしれませんが、ぜひ教育に必要なところに必要なお金をつけて欲しいというふうに思います。言葉だけで GIGA スクールとか、ICT とかみんなおっしゃるんですけど、例えば徳島市、鳴門市は、非常に動作が重い、あまり良くないタブレット端末を子どもたちに配布して、せっかく ICT 支援員が学校に行っても、その壊れているものを直すという作業ばかりをして、本来の活用の方法に時間をかけられないというのが今の現状だと思います。結局遅くて授業では充分には活用できていないというのが今の現状ですが、可能性がすごくあるのに勿体ないというふうに感じているんです。

大学でもいまハイブリッド授業とかコロナ関係で来られない学生も参加できたりとか、今だったらいろんな理由で大学に足を運べないとか、精神的に課題を抱えている学生もオンラインであれば参加できる。ただ、同じ質の教育かといえば、全てオンラインがいいとは思わないんですが、部分的にこういう工夫しながら、今までだったら不登校になった子が、もしかすると、オンラインを活用しながら学校に通えるということも出来るかもしれないし、今デュアルスクールの取組をされているんですが、例えば山村留学とか今まで取り組んだものとリンクして、その ICT も活用しながら、その時だけ来てるんじゃないくて、もう普段から繋がっている状況を作っていくと、来た時にはもっとスムーズに繋がると思うと共に、小さい学校、どうしてもグループ学習とか刺激があんまりない小さい学校や、経済的に先生がなかなか確保できない学校もあります。ICT を活用すると、都会の学校と繋がったりとか、同じ県内の違うところと繋がったりして一緒に授業できたりすることも可能ではないかと思うんですが、それをするためには必要な人材、ハード面もソフト面も必要だと思うので、ぜひ教育委員会を責めるんじゃなくて、教育委員会に必要なお金を与えて、実際良い教育ができるものを、他の県の方が徳島に行ったら素敵な教育を受けられるような整備をぜひしてほしいというふうに思います、以上です。

(金部会長)

ありがとうございます。21 世紀は知識基盤社会、情報社会ということで非常に教育が

大事になると思うんですけども、コロナが一つのきっかけにはなって、オンラインを通じた教育、ICTを活用した教育が重視される一方、もともとやってきた対面での教育も非常に重要なので、必要などころに必要な方法で多様な教育ができるような、そういった備えが必要だという御意見だったと思います。

他にいかがでしょうか。森委員お願いします。

(森委員)

お世話になります。一般財団法人さなごうちの森です。まずはいろんな意見をまとめて頂きました県の職員の皆様に、綺麗な計画の素案ができていることに関しまして、感謝したいと思います。ありがとうございます。

教育に関連しまして、僕が思うことは、2060年ということは40年余り先の計画と思われるんですが、こうなった時に、それぞれの学校も含めて、人数が少なくなる。これに対応するために、ICTであったり、このDXを進めていくと思うんですが、それにも増して、市町村合併とかの話、枠組みがもっと大きくなるのではないかなというふうに思うんですけども、この町村をまたいだ学校政策は当然、県が音頭を取って進めていくべき事業ではないのかなと。まさにこの2060年ということは、もう人口が半分近く減っていくと思うんですけど、この中で教育だけじゃなく、市町村合併も含めた大きな枠組みっていうのを、県が音頭をとって進めていくことを、この計画にも含めるべきではないのかなと、皆さんの意見を聞きながら、またこの部会の中で教育をメインで押し出していると思うんですけども、この中でもそのような意見ももう少し入れるべきではないかなと感じたので、お願いできたらと思います。以上です。

(金部会長)

そうですね。40年後と言っても本当に一年一年、ものすごく変化が激しい時代を生きていますので、そういった将来を見据えてのビジョンをいかに出していくのかということなんですよね。ありがとうございます。それでは話題を変えてもいいでしょうか。

近森委員、お願いします。

(近森委員)

近森です。よろしくお願ひいたします。まずはじめに御説明いただき、ありがとうございました。私は11月1日の総合計画審議会の方にも出席をさせていただきまして、お話を聞いていた中で、また改めてお話をお聞きしまして、一つ気づいたことが、グローバル化という言葉がなくなっているんだなと思って、改めて最終年度を迎えるこちらの「未知への挑戦」とくしま行動計画の方を、見せていただきました。もしかしたらダイバーシティという言葉に置き換わっているのかもしれないけれども、すごくグローバル化を意識した行動計画だったと思うんですが、おそらくコロナのことだったり、色々あって、やはり徳島にいながら、世界で、一つの地球のうえで、皆さん住んでいる、関係しているっていうことが、より浸透してきたんじゃないかなと、一人考えておりました。余談ではあるんですけども思ったことなので、お話させてもらいました。

話題を変えさせていただきますまして、私の方から働くということに関してコメントさせ

て頂ければと思います。資料5の2060年頃を目指すべき将来像ということで、森委員さんもおっしゃってたように、40年後の未来がどうなっているかというところをいろいろと想像されていると思うんですけども、4ページに「人生100年時代、アクティブシニアをはじめ、あらゆる世代が」とあるんですが、私もこのアクティブシニアに入るのかなと思って見ておりました。そうなった時に私個人的には本当に死ぬまで働いていたいというタイプですので、やはり自分の体力の衰え、でも元気なうちは、働いていたいというところで考えた時に今の状況を見てみますと、結構50歳を過ぎた頃から、なかなかその会社の中で活躍するということが、今難しい現状になってきています。やはり若い方には入って欲しいって言う企業さんが多くなっているんじゃないかなと思ってます。一方で年金のこととかもあって、今は63歳から支給されるかと思うんですけども、その年齢も年々引き上げられていくというようなニュースなんかも聞いてます。その間、どうやって生活するんだらうっていう漠然とした個人的な不安もあるんですけど、そうなった時にやはり元気なうちはお仕事をしたいという方がたくさんいらっしゃると思うんですね。そうなった時に、5ページの(3)の下に、「人材のスキルを高めるリスクリング」という言葉があります。最近この言葉よく聞くようになってまいりました。この言葉とアクティブシニアというの結びつくのではないかなと思います。やはり体力的にも肉体労働的には難しいかもしれませんが、また新たな知識を習得して、違う形で社会に貢献できる。お仕事ができるっていうのは、私の今の世代でもすごく大事だし、考えていかないといけないなと思ってます。こういう機会が、例えば徳島県でもすごくたくさんある、学び直しすることによって、また新たな仕事に就くことができるとか、そういうものが打ち出しされることで、徳島県のそこに行ってみようかなというような流れにもつながるのではないかなと思いました。

最後の7ページのところに私もそうだなと思うんですけども、この「多様な暮らし方や働き方が実現する」というところで、2番目に超スマート社会と書かれています。確かに本当にICTインフラと未来技術の進展によって、どこに住んでいてもお仕事ができる状況というのは、すでに今も可能かもしれませんが、またさらに広がっていくのではないかなと思ってます。そうなった時に徳島を選んでもらうということがすごく大事になってくるのかなと思います。2060年に徳島に行けば、こんなことができるか実現できるか、そういうところですごく差別化できることもあるかもしれませんが、実際、私の周りでも2拠点居住というので、徳島県に住んでいるんですけど、違う県でもお仕事だったり、家族がいらっしゃるっていう方が結構周りに増えてきました。やはりそうなると、いろんなところで関係人口って造られていて、でも最終住むところを決めていくと思うので、そういう時にやっぱり徳島県に住もうとなる決め手っていうのは人それぞれではあるかもしれませんが、決めるポイントっていうのはお仕事ではないのかなと思ってます。

あと、県外から転居して来られた方とお話する機会がありまして、その方も徳島のイメージを色々と語っていらっしゃいました。前の高校生とか大学生にヒアリングをかけた時に、言ってた内容とすごく似ていて、自然は豊かでいいんだけど、交通の便がちょっとという感じだったんですが、でもやっぱり仕事があればすごく住みやすいところですよというふうにおっしゃってました。私もそういうところにすごく同意見だったので、

やはり暮らしが安定して出来る。先ほど子どもたちの笑顔っていうのがありましたけど、子どもを笑顔にするためには、やはりその親や周りの地域の方たちといった大人も笑顔になる必要があると思いますので、働く、生活する基盤というところを、より打ち出した内容になっていくと、40年後の未来も明るいんじゃないかなというふうに思いました。すみません、長くなりましたが、以上になります。

(金部会長)

何かご返答いただきたい点などございますか。

(近森委員)

学び直しみたいなどの政策など、もしございましたら教えてください。

(商工労働観光部)

商工労働観光部でございます。今人口減少という中で、コロナ禍の中でも有効求人倍率一倍を超えるという状況で、これからアフターコロナ、ポストコロナというところになって、色々な働く意欲のある方、どんどん活躍していただきたいというところがございます。商工労働観光部では多様な人材の活躍ということで、若者から高齢者まで、働く意欲のある方に働く機会が見つかるようにということで、施策を実施しております。現在、そのとくしまジョブステーションというところで、若者だけでなく、高齢者の方も仕事の相談とか受け付けておりますし、リスキリングというところでも、現在高齢者専門にというのではないんですけれども、講習会とか、平成長久館というところで、人材のいろんなコースがあって、セミナーとか教育形式で実施しております。今後こういった計画というところでも、そういった視点を大事にして行きたいと思っております。ありがとうございます。

(金部会長)

ありがとうございます。お願いします。

(政策創造部)

政策創造部です。当部の方では総合大学校本部ということで、県民の皆さまに、各部局と連携をしながら、講座を色々提供しているところでございます。その一環で、先ほど言われました学び直しや、リカレント教育の方を進めているところです。実際には大学とも連携をしております。令和3年度で言いますと、受講者の方はまだ90名程度でございますけれども、徳島大学であれば介護現場スタッフ向けの感染症対応力向上のための実践プログラムや、阿南高専であれば3次元CADの実践講座、文理大学であればフレイル予防の指導者養成講座などの講座を進めているような形で、できるところから、スクリーニングの方を頑張っているというところでございます。

さらに、近森委員の方から関係人口であったり、徳島のイメージをもっと持っていて、自然の中でも徳島には仕事があって、さらに県外の方からっていうようなお話もいただいております。今政策創造部の方ではとくしまぐらし応援課という移住に取

り組んでいるところと、デジタルとくしま推進課という全庁のDXを所管して全体を進めていくようなところがございます。ちょうど国の方でも、デジタル田園都市国家構想というのが打ち出されまして、地方創生の取組を進めつつも、いろんな課題に対してはデジタルで解決していく。先ほど高畑委員からありましたように、地方の良さというのを持ちながら、仕事やお住まいなんかをしっかりと作っていきたいというふうに考えております。我々も新たなその構想の中で、しっかりとこの計画の中にも生かしていけるよう考えていきたいと思っております。色々とまた御提案頂けたらと思っておりますので、よろしくお願いたします。

(金部会長)

リカレント教育とリスクリング教育、これに関しては定義をしっかりとさせたいと思うんですけども、本来ならリカレント教育というのは、教育と労働・仕事を交互に行うようなものであって、働く、少し職を離れて学ぶ、次また働く、このように新しいことを学ぶために職を離れることが前提なんですね。リスクリングというのは、DX時代の人材戦略のために今求められているものであって、経産省でも大変重視されているものなんですね。これはDX戦略において、新たに必要とされる業務とか、職種に順応できるようにスキルまたは知識を身につけさせるもので、リカレントとは違って、働きながら学ぶ、そしてそれを仕事に使うということなんですね。長期ビジョン編と中期プラン編を見て、ICT関連でハード的なものを実装しましょうということはあるんですけども、問題はそれを使いこなす人材ですよ。例えばDX教育といってもそのDX教育を行う人の育成に関する部分は弱いんじゃないかと感じます。このリスクリングに関しては企業だけでなく、教育現場や各市町村のさまざまなところで、どのように支援し、スキルをつけさせる為の講座や研修会等をどのように持っていくか、実際の制度づくりがこの時代を生きて行くために非常に重要な部分であると思っております。つまり、このDX時代を生きるための人材育成戦略をどのようにしていくのかという部分にもう少し力を入れて考えていくべきだと思います。実際、ものが整えられていても、使えないようになりますと何のプラスにもならないし、戦略にもならないわけなんですよ。

他にいかがでしょうか。平岡委員、お願いします。

(平岡委員)

先ほどからの委員の皆さまおっしゃっていらっしゃるように、この長期ビジョン編及び中期プラン編、とても詳細に丁寧に作られていて、皆様の徳島の未来に対する熱い思いと、そのたくさんの時間をかけて作っていただいたんだろうなということを非常に感じます。本当にありがとうございます。

一つだけすみません。まずざっくりとしたことを一点確認したいんですけども、配っていただいているこの長期ビジョン編と中期プラン編というのはリンクしているというふうに考えていいのか、それともそれぞれ別で立てているものなのかということが一つ質問したいです。まず長期ビジョン編の方では三本の柱という形で、これがそもそも県が今後目指して行く姿になっていると思うんですけども、中期プラン編の方を見ると、6つになっていて、この6つというのが、例えばⅠ、Ⅱには「(1)未来が輝

く『躍動とくしま』」に紐づいているのか、Ⅲ、Ⅳがこの（２）に紐づいているのか、そういう形で解釈するというので、よろしいのでしょうか。一点確認させてください。

（政策創造部）

政策創造部です。長期ビジョン編でお示させていただいているのは、2060年の目指すべき姿ということと、中期プラン編については、2030年の目指すべき姿に、手の届く未来ということで、その施策の方向性をここで示していこうというのが、中期プラン編になってございます。先ほど質問がありました長期ビジョン編と中期プラン編がどう関連するのかといったところなんですけど、前回の資料で見える化させていただいたのですが、長期ビジョン編は3つの将来像を示させて頂いており、一番上の「未来が輝く『躍動とくしま』」に関しては、中期プラン編のⅠとⅡに集約するような形で表示させて頂いております。その次の「未来へ紡ぐ『強靱とくしま』」について、中期プラン編では、ⅢとⅣの「安全・安心とくしま戦略」と「循環・継承とくしま戦略」。そして最後の「未来を拓く『創造とくしま』」について、中期プラン編では、このⅤとⅥの「革新・成長とくしま戦略」、「魅力・交流とくしま戦略」というところに対応しております。以上でございます。

（平岡委員）

ありがとうございます。よくわかりました。すごく分かりやすくまとまっているし、その長期ビジョン編に向けた中期プラン編、より具体的な徳島の個々のケースに応じた戦略っていうのがどういうふうにしていけばいいのかっていうのが、それぞれ分かりやすくなっていると思うので、とてもよくわかりました。ありがとうございます。

こちらの方から付け加えたかった点としましては先ほど近森委員がおっしゃっていたリスクリングというところと、少し話題が戻ってしまうんですけども、オンライン教育の本質部分についてという二点について、少しお話させて頂きたいと思っています。

まずリスクリングに関してなんですけれども、私は今保育士をしているんですけども、私の周りには現在育休をとっていたり、それから身近に小さいお子さんがいらっしゃる先輩保育士の方とかがいらっしゃるって、そういう家庭内のケア労働に従事している方というのが今、実際の労働市場に出られていないという状況が結構あると思うんですけども、今のその若者世代はかなり高いITスキルを持っている方が非常に多くて、私のその育休している友達とかも以前はIT系の企業に勤めていたのを、今は休職していたり、退職しているという形で結構埋もれてしまっているIT人材っていうのが本当に徳島にも多いと思うんです。特に女性や、育休とかそういうケア労働に従事している方を中心に本当に多いと思っています。加えて、今の現場の教員の人たちも、若い世代の人たちは本当に使い慣れていて、生まれた頃からインターネットもデバイスも身近にある人たちなので、色々使い方のアイデアもあるんですけど、やっぱり現場で提案すると上の人に却下されてしまったり、前例がないからという形で承認されなかったりということが本当に多いと聞いています。ですので、やはりリスクリングにあたって、まずはどんな人材があるのか、どんなスキルを既にみんなが持っているのかというそのスキルの発掘というか、現在あるスキルを把握するという段階をまず経ることで、どこをより育

成すればいいのか、どこに今力が足りないのかというのが見えてくると思うので、潜在的なスキルという観点で何か県の方でも把握できる部分があれば、例えば若い教員が先輩教員に IT を教える機会を増やすであるとか、今育休で離れているお母さん方が児童センターで子供を見てもらっている間に、その高齢の方々に IT スキルを教えるとか色々な形ができると思うので、そういった今すでにスキルがある人たちがどこに居るのかというところを把握して頂けると、より効率的に回っていくのではないかなと思いました。

あと教育に関して話が戻ってしまうんですけども、一番最初に高畑委員の方から話があった、オンライン教育の本質的な部分が今後どんな形になっていくんだらうというところで、私も現在オンラインで保育に関わっているので、少し思うところがあるんですけど、やはり教育格差が広がるのはオンラインのデメリットだなと思います。やはり保護者の方が、ある程度教育に対する意識が高かったり、資産を持っているお子さんは、本当にいろんな機会に恵まれて、オンラインの体験も豊富だったり、実際の自然の中で体験していることも豊富だったりする一方で、学校がなかったら教育の機会を本当に与えられない子どもたちというのも、実際に今の徳島にもいるんですけど、そういった子どもたちは親にあんまりデバイスの使い方も教えてもらっていないし、そういうキャンプにも行ったことがないとか、いつも家でテレビ見てるだけという過ごし方をしている子どもたちが本当に多いと思うんですけど、やはりそういう子どもたちほどオンラインで置いてけぼりにされてしまうという現状があると思っています。ですので、今後の姿として、やはり教育の福祉的な側面というのがすごく求められていく形になっていくのかなと考えています。なので、今やっている DX を進めつつも、旧来型の学校で教える形の教育というのをいかにブラッシュアップしていけるかとか、そういう議論も同時進行することで、先ほどのビジョンにも書いてあったように、一人一人に応じた個別柔軟な教育が提供できると思いますので、そういった観点での検討も進めていただければ幸いです。以上です。

(金部会長)

ありがとうございます。いろんなスキルを持った方々をいかに発掘するか、潜在的な能力を持った人を、顕在的な形にしていくということなんですけども、何かいい方法があるんでしょうかね。先ほど、ティーチャーズバンクという話もありましたけれども、県内にはさまざまなスキルや能力を持った方々が、様々な年齢層において活用できずにいる、そういう人材がたくさんいると思うのでやはりそのような方々を顕在化させることがとても大事なことだと思うんです。人材育成の傍ら、人材発掘の方針を立てる必要がありますね。それでは他にまたお願いします。藤岡委員、お願いします。

(藤岡委員)

よろしくお願ひいたします。本当に資料などすごく見やすく、簡潔にまとめられていて、拝見しやすかったです。どうもありがとうございます。御説明などもありがとうございました。私ももともとその子育てとか教育というところが専門分野でありますので、もうすでに委員の皆さんが御意見くださったところに重複するところもあるんですけども私は、保護者という立場でもありますし、あとは現場に近い立場でもあるかなとい

うふうに思いますので、そういった点でこのプランに沿った意見が言えたらなというふうに思っています。

まず一点目。デジタル化の推進というふうなところがあるかと思うんですけども、現状まだまだ現場の方では活用し切れてないというところがすごく浮き彫りになっています。まず、私のところは、小学生の子供が二人いますので、現在小学校に関わらせてもらっていて、PTA とかにも入ったりしてるんですけども、一人一台タブレットという形で、モノはできたんですけども、それを活用できているかと言われると、学校内だけで終わってしまっているような状況もあるなというふうに思います。今、丁度県内でもコロナの感染者が増えてきているような状況の中で、学校が突然学級閉鎖になっていたりするんですね。そういった時こそ、そのためのタブレットではと思ってはいるんですけども、実際はもうタブレットすら持って帰ってこず、学級閉鎖になり、ピンチな時に使いこなせていないという状況がありまして、そういった時に緊急でプリントを出すということもできず、もう急に3日間位何もしなくてよくなったみたいな状況になったりしてしまっています。やはりせっかくお金をかけて一人一台タブレットというふうな形でしているので、とっさの時に活用できているような状態にしていかないとすごく勿体ないと思いますし、逆に一時期は使わないのにタブレットを毎日持ち帰ってくるみたいな時期もあったんですね。子どもたちのランドセルはすごく重たいんですけども、そこに重たいタブレットが上乘せされて、毎日持って帰ってくるみたいな状況とかもあったので、そういったところはまだ学校単位でも活用というふうなところとか、じゃあいつどういいう時にそれをやっていくのかというところがと統一されていないような感じはありますね。

PTA などでも、市や県の方に書類の申請を出す時にもやはりまだまだ紙ベースというところがありますし、PTA の会議自体がオンライン化していくところも、試みではいるんですけども、実際に ZOOM を活用しようとした時に、学校に予算がなくて、無料版でするんです、すると 40 分経つと切れるんですね。切れた時にじゃあどうするかみたいなところとかも、あまり対策が取れてなかったりしますので、どうしてもまた入り直してみたいなところで、すごく時間がかかってしまったりだとか、教室単位で分かれて、ZOOM でつなぐみたいなこともやってみたんですけども、パソコンにそもそもマイクがついていないみたいな問題とかもありまして、そうなってくるとまた先生が職員室まで伝言を伝えに、走って帰っていくんですね。そういうふうな現場の状況とかをみて、やっぱりまだまだ細かいところでのデジタル化というところが進んでいないにもかかわらず、大きなところでのデジタル化が進んでいったらすごくいいよねというふうなところになってしまうのも、やっぱり困るかなと思ったりしますので、本当に現場でどういうふうに使っていくのかとか、こういうふうにできたらもっと効率的だし便利だよよねというところが、まず情報共有があんまりされていないのかなというふうにも思いますし、もっと活用している学校であったりだとか、行政などもあるかと思うので、そういった上手に使えているところの事例などを、もっと共有したり、提案したりしていく必要もあるのかなあというふうに思います。やはり学校の先生達が実際にそれを調べるような時間があるかと言われると、今すごく手いっぱいな現状もあるかと思うので、そういったところをまた別の形でサポートする人たちが必要なかなと思いますし、今

ICTのサポートの人たちが学校にも行っていますけれども、先ほどフェネリー委員もおっしゃって下さっていたように、使い方とか、その機器のケアみたいなところで手一杯になってしまっていて、実際に活用というところのサポートにまで至っていないかたりだとか、発展してどういうふうやっていくといったところにまで至っていないかなと思います。なのでそういう現場での困りごとが、実際どんなことがあるのかというものを拾い出しをして、それに対してどういうふうな対策ができるのかというところを一つ一つやっていく必要があるのかなと感じています。デジタル化の推進については以上です。

子育てとか教育といった面で、また意見を言わせていただけたらと思うんですけども、私も2030年とか2060年とか、そういった未来に、この徳島県が残って行くとか、日本がもっと活性化して行くためには、今の子どもたちとか若者たちをどういうふう育てていけるのかというところがすごく大事だと思っているんですね。なので、そこにフォーカスされていて、このようにプランを組まれているということも、すごく素晴らしいことだなというふうには思っています。一方で、その子どもたちや若者も一人で育っていくわけではありませんから、やはり子どもたちを実際に育てている人たちや、その教育に関わっている人たちへの支援とか、そういった所への取組をしている団体や、そして施設に対する支援に、もっとお金を掛けて行くべきだなというふうには思っています。

私は実際に自分自身が保育士をやっていたということもありますから、いま保育士さんへの自己肯定感を高めるような支援というものに年間を通して関わらせてもらっています。そういったプロジェクトを通して、園の先生であったりだとか、あと保育士さんたちに関わる機会があるんですけども、やはり保育士さんたちや、学校の先生とかもそうなんですけれども、一人ひとりの心の余裕がないような状態になってしまったりだとか、その自分自身のケアというところがしっかりとできていない状態で、子どもに対して本来はすごく思いがあるのに、それを実際に行動に移すことができないとか、なかなか不満とかがある中で仕事を続けていて、もう心がしんどくなってしまって辞めてしまうような先生たちもすごく増えてきているんですね。そういったところに対して、あれもやってこれもやってみたいな感じで求め過ぎるのも違うなと思いますし、今、そういうふうに一生涯懸命関わろうとされているその先生達への支援というところを、やはりもっと充実させていったりだとか、大切にしておくべきだなというふうには思っています。

本当に人材不足というところもちろんありますので、そのなり手になる人たちを育てたりだとか、増やしたりすることももちろん大事だと思うんですけども、人を増やして、解決する問題だけではなくて、やっぱり質を保つこともすごく大切だと思うんですね。最近ニュースとかでも取り上げられてますけれども、子どもが来てないのにも関わらず、出欠の確認をせずにバスに取り残されてしまっていたとか。やっぱりそういう一つ一つのことも、その先生の余裕の無さというところが浮き彫りになっているところもあったりすると思うんですね。なので、実際にそういった保育士さんへのケアというところをすごく課題意識とじて取り組まれている施設の方が、私たちのプロジェクトに賛同して一緒に取り組ませてもらっているんですけども、そういったところが国

とか県から何かその研修費にあたる補助金を上手に活用できていますかと質問すると、そんなのは一切ありませんっていうふうにおっしゃられます。なのでその施設の園長さんないし、理事長の方が必要だけれども、お金はつかないけど、でもこれが今急務だと思うから、やってるといって自主的に取り組んでいるような状態なんですね。でも、こういった取組が必要な園は、もっとたくさんあると思いますし、学校でもそれを求めているところはきっとあるかと思しますので、そういった求めているものに対して、予算をつけるなり、それをサポートできる人をつけるなりということがすごく大切なんではないかなというふうに思います。

長くなってしまいましたが、すみません。そういったところで、私も同じ思いでありますので、その現場だけに任せるのではなくて、いろいろそういったところに対して一緒に頑張っていこうとか、ケアをしていこうというふうにされているような団体とかを、本当に上手に活用して一緒に取り組んで行けたらいいのではないかなというふうに感じています。以上です。

(金部会長)

デジタル社会といっても、それが生活レベルまで広まる、誰でも使えるような状況になるには、まだまだ時間がかかるだろうし、その辺に関する支援が本当に必要なところですよ。難しいところでもあると思います。

また保育士の自己肯定感を高めるようなケアにおいて、いろんな制度を作るとか、支援策を考えると、本当に重要な部分だと思います。その辺のところを政策に反映していただけたらと思います。

どうでしょうか。フェネリー委員お願いします。

(フェネリー委員)

すみません、先ほどの藤岡委員からの意見に関して、大学では積極的に ICT 活用できる教員の養成を一生懸命頑張っています。

徳島に長く生活している中で、県外から来る人、また、高校生・大学生と話す度に不満を言われるのが、もう何回も同じこと言われるんですけど、交通の便が悪すぎるとよく言われるんですね。最近、高速道路が少しずつですが、ましにはなってきたり、伸びている。伸びているところにはいろいろな意見があるかと思うんですが、高速道路は、便利になって来たような気がします、相変わらずバスや汽車が不便ですよ。私も仕事にバスで行こうと思ったら、一回徳島駅まで行って乗り換えて、一回行くのに 500 円かかることになりますので、使おうという気持ちになかなかならないんですけどね。それもやっぱり自然に対する、ゼロカーボンに向けてっていうことになると、一人ひとりが車で移動するということから離れるためには、やはり交通の便をどうにかしなくちゃいけないんじゃないかなというふうに思います。

一方で水素バスの取組だったりとか、今度鳴門大橋でしたかね、自転車を通れるようになるんですけど、じゃあ渡ったところでどうするのというのは、結局車と同じ道で走らなきゃいけないんですかねというふうに思ってしまいます。実際、自転車で徳島をあとこち行こうと思ったら、土手だったらもう落とされるような所もあって、うちの学生

が自転車で部活に行っている姿を見るとヒヤッとする場面がたくさんありますので、具体的にこれからどのようにこの交通の整備をしていくのかというのがよくわからないというのが正直なところですので、この徳島で仕事すること、生活していくこと、やっぱり移動手段は必要ですね。100歳まで働くにしても、100歳までずっと車を運転しなきゃいけないのかといたら、それは多分できないと思うし、じゃあどうやって移動するのということになると、今のままだったら100歳までは私はもう移動できないと思うので、どうするんだろうなあと思います。

だから、本当水素バスのような素敵な取組もある一方、例えばDMVの目玉にしようとしているものがあるんだけど、そこまで行くのに、じゃあ車で一時間半かけて行くかっていうと私は行かないんですね。だったらもうやっぱり交通の便はどうにかしなきゃいけないと思います。学生はピッとしたいのに、結局切符買って行かなくちゃいけないとか言うし、魅力のある徳島に人を来させようと思ったらやっぱり行きたいところに簡単に行けるような環境を作っていけないといけないんじゃないかなと思います。

あとは安心して生活するというのは、ダウンプランニングがあまりされてないような徳島市内に今住んでいるので、自分の子どもがものすごく狭い道に、もともと農業のための道にガンガン車が走っている状態で、人間と車が同じ狭い道で歩かなきゃいけないという環境ですので、安心して生活できるかと言ったらそうではないんですね。自分の子どもが通っている学校、今日も交通事故のニュースがありましたけど、あのような中でやはり交通の整備をどうにかしないといけないと思います。それが高校生、大学生といつ話してもやっぱり徳島は交通が便利が悪いということをみんな言いますので、それを見える形にぜひ取り組んでいただき、簡単な問題じゃないということはいくつか分かってますけど、取り組まないと変わらないので、ぜひそれを見える化していただきたいなというふうに思います。

あと私は徳島市で生活してるんですけど、長い間の地方の方で生活していましたが、今そこの地域に行くと、診療所がほとんど閉まっているし、お店もほとんどない。バスもほとんど通らないし、じゃあ高齢になったらそこで生活できるかという、ものすごく生活しにくいと思います。デイサービスもサービスが悪くなっているし、年寄りに対するサービスもほとんどできないし、学校もなくなっていく。ここに働きに来ませんかと言ったところで、仕事があっても学校はない、病院もない、買い物するのに一時間車で走る必要があるというふうな環境では、人においでって言いづらいと思いますので、特に合併後の徳島の田舎のところはすごく寂しい状況になっているのが現状だと思います。それは人口とお金の問題だってわかっているんですけど、車で一時間離れた役場に行かなくちゃいけないとか、年寄りが車がない中、バスは一日に一時間半に一本しかないとか、そんな環境で生活していくという中で、なかなか人においでとは言えない環境じゃないかなと思いますので、地方に関して、これからどういうふうに取り組んでいくのかというのが、非常にお金と人口の問題が難しいと思うんですが、この交通の便は、徳島によくある、人口がすごく減っている地域はこれからどうして行くのかという、神山みたいに自分で積極的にやってるところとか、また佐那河内村や上勝町とかは徳島市に近くて便利なところですけど、そうじゃないところが池田方面や那賀町のあたりとかにはたくさんあるので、これからどうするのかなというのは心配です。その2点、地方

と交通について見える化していただきたいなというふうに思っています。

(金部会長)

これから徳島の将来を考える上で、とても大事な部分だと思いますけれども、各市町村においても、暮らしを保障できるような状況をいかに作っていくのかということが本当に大きな課題ですね。これに関しては課題として受け止めていただきたいと思います。

(県土整備部)

交通に関する御意見を頂いてます。交通の中では二つありましたが、まず一つ目、交通と一言に言っても、市内を回るような短期的なところと、県外をまたぐような、非常に遠距離のところとに分かれます。今委員の方からも言っていました高速道路については、徳島道が池田方面、西部方面には繋がっていて、今、四車線化を進めています。四車線化については、もちろん時間軸の短縮というのが一番大きな目的であります。もう一つ、大きいのは安全性の向上です。先日も新聞に載っていましたが、対面交通は非常に事故が多いので、その解消に向けて、この12月より、脇町から西の方でも進めていきます。

それから南の方に向けては、確かに非常に遅れています。そこについては、日本の国土開発の中において県南地域はつねづね後回しにされてきた部分をはっきり言って否定できないと思います。

鉄道の話に戻りますと、御存知のように四国の右下は鉄道が繋がっていません。日本全国において沿岸部は鉄道が必ずある地域がほとんどでございますけれども、四国においては、国鉄時代からもうすでに止まっていた。そういう地域性があります。その中において、新たな人の流れを作らないと、沿線地域の人口だけで公共交通を守るのは、委員からおっしゃっていただいたようになかなか難しい部分があって、外から新たな人の流れを作ると、そして流れを太くしないと、地域公共交通を守っていけないと思っていて、その一つの政策はDMVだと思っています。

それから今回のコロナ禍において、一番顕在化してきたのは、やはり公共交通の厳しさ、特に鉄道の厳しさというのが今、徳島のことで話してはいますが、これは徳島だけじゃなくて日本全国で謳われています。JR四国はどこも黒字の路線がないといったような状況です。ところが、JR東日本やJR西日本は裕福かといえばそうではなくて、JR東日本やJR西日本においても、新聞報道でありますけれども、最近路線ごとの線別収支というのが示されています。あれははっきり言って厳しいところがあると、我々行政側にそういった課題を突きつけている部分があります。そこで本県としましても、JRといえど民間会社なので、乗って残すということを住民の方に意識づけることが非常に大事だと思っています。今学生のお話をさせていただきましたけれども、われわれ車に乗る人は、公共交通に対する意識が明らかに薄いんですね。それに対して鉄道・バスがないと困る方が、学生を中心に、あるいは高齢者を中心に少なからず必ずいる。学生の時にそれを感じてきていたんですが、車に乗るとそれを忘れてるんですね。それで歳をとると、やっぱりまた思い出してくる。みんなが乗らないと、どんどんどんどん減っていくよというような県民に向けての意識づけをするために、「乗って残そう公共交通」

というコンセプトを掲げまして、まずは今年度、12月4日にシンポジウムを県南でやります。本当はいろんなところにバスを走らせて、いろんな線路を新しく引いてということができればいいんですが、当然、そういったことはできません。そういった中において、まずは現状のものを残すということですら、ままならない部分もありますので、まずはそういった意識付けを県民の方にしていきたくと考えています。賛否あって当然だと思います。一番寂しいのは、住民が交通に対する意識がない事だと思いますので、まずはシンポジウムを通じて、公共交通の大切さというのを県民の方にわかっていただいて、乗って残すという意識付けをまずはしっかりとやっていきたい。今後はそういった中において、新駅の話もありますけれども、公共交通の利便性の向上がどこにあるのか。バスの再編というのも毎年やっています。そういったことも含めてソフトの部分、ハードの部分も含めて少しずつできることからやっていきたくと考えております。以上でございます。

(金部会長)

ありがとうございます。それからもう一つ地域における、例えば福祉施設であったり、病院であったり、学校であったり、こういった生活基盤施設ですよね。そういった部分が合併によっていろんな問題も生じていますので、その辺のところをどのように解決して行くのかということも、これからの課題ですね。時間が参りましたけれどもいかがでしょうか。では、高畑委員に意見だけいただきます。

(高畑委員)

ありがとうございます。最後、残った時間で産業の部分から意見を述べさせていただければと思います。私、一般社団法人 Disport のほかに、株式会社 ReBlue という水産ベンチャーを経営しておりまして、牡蠣の養殖を海陽町で実装して、今ほかの地域にも実装できるような、まさに養殖 DX という技術開発と、あと種苗生産ですね。生き物なので、いくらいい触り方をしても死なせてしまうというところで、養殖の経験から、良い種苗生産と良い触り方の技術っていうところをセットで事業展開をしています。おかげさまで、今年度の農林水産省のディスカバー農山漁村の宝にも選定いただいて、今月総理官邸にもお呼びいただくと言うような形で、産業 DX、特に一次産業の DX の事例として、大きな布石を打てたのかなと思っています。今後、我々の展望としては、そのデジタル田園都市国家構想の中でいくと、今回はデジタル×教育というところの話がメインだったと思うんですけど、産業×デジタルというのが非常に重要になってくる中で、その部分の一事例としてできるようにしていこうと思っています。デジタル田園都市国家構想に関して言うと、行政の施策に絡む部分なので、民間一社で取りに行けるようなものでもない中で、そこは行政と連携できればというふうな思いがあります。

また、水産養殖というところで、水産業全体でいうと徳島も含めてですけど、日本全体が衰退している中で、養殖業に切り替えていくというところは、もう至上命題だと言うところがある中で、徳島でいくと、わかめ、ハマチ、ブリというところがメインになってくるんですけど、全国的に見ると、養殖物というのがかなり弱い県でもある中で、そこから全国事例になるような二枚貝の養殖の事例が出てきているものを、まずは足元

の県内でも横展開できればなと思っています。同町内でも漁協がやはりどんどん衰退していて、浅川漁協が合併する背景があるんですけども、その跡地の活用をわれわれが担う機会をいただいているので、漁村の復活にも、もちろん海陽町だけしかやりませんという話ではないので、徳島県下で同じような状況下のところにも展開できればと思っています。行政には、子どもたちのこの出口の部分ですね。優秀な人材ほどサービス業に就けばいいという構図に日本全体なってるんですけども、円安とかも含めてもう国力がどんどん落ちている中で、一次産業が空洞化していくところに、本当に危機感を感じているので、モデル化であったり、いろいろな支援、施策はDXの文脈も含めてなんですけども引き続きしていただきたいなと思っています。

また、海外市場の開拓という記載があったんですけども、まさに行政であったり、商工労働観光部や商工会の支援をいただいて、先月、シンガポールにも行かせていただく機会があったんですけども、徳島の地で育ったものは非常に良いですねということで商談を取り付けられたんですけども、結局輸出におけるロジスティクスが県南は全く整ってないということで全て破談になってます。要は市場便がなくなっているんで、豊洲に届けてくださいと言われても、豊洲にはヤマトのクール便でしか届けられません。そうすると、朝に着かないのでは話にならないんでということで全て破談になったという背景があります。もちろん物量がないので、市場便を復活させてくれというのは一概には言えないんですけども、そういった新たな取組がある一方で市場まで届けることができているというところですね。人の動きだけでなく、物の動きにおいてもデメリットがあるというところはお伝えしておきたいなと思っています。以上です。

(金部会長)

ありがとうございます。いま第四次産業革命といわれる中で、やっぱり一次産業というものは生活を支える非常に重要な部分でもありますし、徳島ならではの一次産業として、発展させていける部分はちゃんと育てていかないといけない部分ですよ。

ありがとうございます。それでは時間が参りましたので、意見交換を終了したいと思います。なお、本日の部会の審議の経過及び結果については、徳島県総合計画審議会部会設置規程第3条第2項の定めにより総合計画審議会に報告させていただきます。県においては委員の皆様からいただいた貴重な御意見や御提言を踏まえ、新たな総合計画の策定に向けた作業を進めていただきたいと思います。

なお、本日の会議の内容について疑義等ございましたら、後日でも結構ですので、事務局の総合政策課まで御連絡いただけたらと思います。本日委員の皆様にはお忙しいなか御足労いただき、本当にありがとうございました。最後、事務局から何か連絡事項等ございますでしょうか。

<事務局説明>

会議録の公表について、事務局で取りまとめた上、発言された委員に確認を頂いてから、発言者名も入れて公開したい。

以上